

JENESYS2018 ASEAN 招へいプログラム第7陣の記録

環境・防災・農業技術交流 対象国：インドネシア

環境・防災技術交流 対象国：ラオス

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「JENESYS2018」の一環として、インドネシアの大学生・大学院生・社会人9名、ラオスの高校生、大学生、社会人17名が、2018年10月16日～10月23日の日程で来日し、ラオスは「環境・防災技術交流」、インドネシアは「環境・防災・農業技術交流」、をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行は、上記テーマの下、東京都内で講義を聴講、関連施設の視察後、国別グループに分かれ、インドネシアは熊本県、ラオスは岩手県を訪問しました。訪問地では、地方自治体への表敬、テーマに関する視察の訪問、地域住民や関係者との交流等を行いました。また、ホームステイも体験し、日本人との交流を通して日本についての理解を深めました。一行は、プログラム中、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて発信を行い、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】 2か国・26名（内訳）インドネシア9名、ラオス17名

【訪問地】 東京都、岩手県（ラオス）、熊本県（インドネシア）

2. 日程

	インドネシア	ラオス
10月16日 (火)	来日、【オリエンテーション】 【ASEAN 概要の聴講】 ASEAN 事務局、【文化視察】 浅草寺	
10月17日 (水)	【日本理解講義の聴講】 講師：東京大学社会科学研究所 助教 大堀 研 氏 【テーマ関連の視察】 首都圏外郭放水路	
10月18日 (木)	東京都から熊本県へ移動 【表敬訪問】 熊本県 【文化視察】 熊本城	東京都から岩手県へ移動 【地域概要の聴講】 釜石市民交流センター
10月19日 (金)	【テーマ関連の視察】 熊本県八代市アグリビジネスセンター（農業技術） 【学校交流】 熊本大学	【表敬訪問】 釜石市 【テーマ関連講義の聴講】 講師：株式会社かまいしDMC、釜石市オープンシティ 【テーマ関連の視察】 鵜住居町バス、宝来館浦山、防災学習プログラム「いのちの道」 【ホームステイ】
10月20日	【文化体験】 茶道	【ホームステイ】

(土)	【ホームステイ】	
10月21日 (日)	【ホームステイ】 【地域住民・関係者との歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】	【ホームステイ】 【地域住民・関係者との歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】
10月22日 (月)	熊本県から東京都へ移動 【成果報告会】 帰国	岩手県から東京都へ移動 【成果報告会】 【視察】東京タワー
10月23日 (火)	—	帰国

3. プログラム記録写真

インドネシア（訪問地：東京都・熊本県）



10月16日【文化視察】浅草寺



10月17日【日本理解講義の聴講】



10月17日【テーマ関連の視察】
首都圏外郭放水路



10月18日【表敬訪問】熊本県



10月18日【文化視察】熊本城



10月19日【テーマ関連の視察】熊本県八
代市アグリビジネスセンター(農業技術)



10月19日【学校交流】熊本大学



10月20日【文化体験】茶道



10月21日【地域住民・関係者との歓送会】



10月22日【成果報告会】

ラオス（訪問地：東京都・岩手県）



10月16日【文化視察】浅草寺



10月17日【日本理解講義の聴講】



10月17日【テーマ関連の視察】
首都圏外郭放水路



10月18日【地域概要の聴講】
釜石市民交流センター



10月19日【表敬訪問】釜石市



10月19日【テーマ関連講義の聴講】株式会
社かまいしDMC、釜石市オープンシティ



10月19日【テーマ関連の視察】
鵜住居町バス



10月19日【テーマ関連の視察】宝来館浦山、
防災学習プログラム「いのちの道」



10月20日【ホームステイ】



10月21日【地域住民・関係者との歓送
会】

	
10月21日【地域住民・関係者との歓送会】	10月21日【ワークショップ(報告会準備)】
	
10月22日【成果報告会】	

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ インドネシア大学生

この JENESYS2018 プログラムに参加できて、とても幸運だと感じています。今回の訪問地、熊本県では防災対策総司令官である危機管理防災企画監から、地域ごとの組織の働き、どのように地域住民が防災・減災への取り組みに積極的に関わっていたのかについてお話があり、インドネシアでも同じように取り組みたい事例として印象に残りました。アグリビジネスセンターでは、地域の農業関係者に対し無料で相談を受け付けていること、商品開発を支援していることを学びました。その後、開発中のアイスクリームを試食させてもらったことはとても印象に残っています。このプログラムが継続し、インドネシアと日本の友情を結び、関係を強固にする場となることを願っています。

◆ インドネシア大学生

地方自治体と学校訪問で受けた防災に関する話は、特に深く印象に残っています。日本の洪水や地震など災害に対する防災・減災対策はとても素晴らしいです。日本がどのように災害対策を行ってきたのか、インドネシアへ情報を伝えられるようきちんと勉強なくては、と思いました。インドネシアもまた災害に常に見舞われる国であり、耐震構造の建物や首都圏外郭放水路のような地下の洪水対策の貯水タンクの建設、住民の災害への備え等、日本がどのようにして災害に取り組んできたか真剣に学ぶ必要があると思います。熊本県の危機管理防災課のお話は印象的で大変わかりやすく、熊本県での防災訓練や熊本地震の際の対応などについてよく理解することができました。

◆ インドネシア社会人

私にとってこのプログラムは、日本人との交流、環境美化や高いテクノロジーなどの日本社会の特性、また防災対策における行政の警戒準備態勢や住民保護などについて、直接知見を得て、体験することができる素晴らしいプログラムでした。日本の方たちと直

接交流でき、日常生活もまた体験し、満喫することができました。JENESYS は、様々な国、文化、言語を一つにすることができる、とても素晴らしいプログラムだと思います。

◆ ラオス高校生

JENESYS2018 で日本に来られたことを嬉しく思っています。日本理解講義では、日本の経済社会の基本的なことを理解することができました。大都市での日本人の生活を見て、日本人は秩序正しくきちんとしている人たちだと思いました。新幹線に乗って岩手県に移動し、釜石に着いた時の温かい歓迎に感激しました。7年前に起こった震災とそこからの復興について講義を聞き、実際の被災場所に立って説明を聞くことができました。釜石市長にお会いする機会は光栄でした。ホームステイ生活は、興味深く得難い体験でした。防災や日本人の生活について知り、日本の料理を味わい、言葉も学び、とても幸せでした。

◆ ラオス大学生

まず印象的だったのは、釜石の講義でした。日本の防災や復興について知ることができました。そこには進んだ科学技術だけでなく、住民のお互いに気遣い助け合う心があることを知りました。講義を聞いて、地域内外の人々となつながら行動を起こす勇気が湧いてきました。二つ目に印象に残っているのはホームステイです。日本人の子育ての仕方はとてもいいです。子どもを叱るとき日本のお父さんお母さんはやさしく静かに言って聞かせます。日本人はとても賢く礼儀正しくて、魅力的な人たちだと思いました。このプログラムに参加して、日本の様々な技術や文化社会について知ることができました。この経験は私のこれからの生活の中でとても役に立つものなので、自分の成長と国の発展のために活用したいと思います。

◆ ラオス大学生

温かい歓迎に感激しました。日本の経済社会について多くのことを学びました。このプログラムはとてもよかったです。日本人が災害時に避難の心構えがあり、学校では防災教育をしていて、行政が防災マップを作成していることを学びました。「いのちの道」では、あらかじめ避難路を作っていた人がいて、避難できる場所があったのがとても良かったと思いました。ホームステイでは、とてもあたたかく礼儀正しく迎え入れていただき、美しい文化に触れられて、食事とても美味しかったです。首都圏外郭放水路では、高い技術を使って土地を有効に活用していました。地下に大きな貯水槽や放水路を作り、その上の地面はサッカー場やいろいろな建物を建てていました。限られた土地を有効に活用するアイデアがすごいと思いました。

5. 受入れ側の感想

◆ ホストファミリー

言葉の壁を越えて一緒に料理をして、笑って、遊んで、とても楽しかったです。どの子どもも気が利いて、手伝いをよくしてくれ、娘ともよく遊んでくれました。特に娘とは言葉の壁なんてないかのようによく話して笑っていました。実際にいろんな国の人と生活を共にすることで、その人の国の事情を知ることができる貴重な機会を与えてもらったと感じています。

◆ ホストファミリー

穏やかで心優しいラオスの人柄に感動しました。子どもたちが喧嘩をしていると、仲よ

くするように取り計らってくれて、自分たちは5人兄弟だが、喧嘩をしたことがないと言っていたことが驚きでした。学ぶ意欲が旺盛で、多くのことを私たちに考えさせてくれました。

6. 参加者の対外発信

 adamdonilid • フォローする Kumamoto Prefecture, Japan adamdonilid Dari kanan Ketua DPM (Dewan Perwakilan Mahasiswa) UI Mapres Utama FTUI (everyone's mommy) Orang Kementrian LH Anak Urjani Ketua KSM UI (UKM Penelitian dan Kajian) MWA (Majelis Wali Amanat) UI Ketua Menwa (Resimen Mahasiswa) UI Mapres Utama FH Mapres 3 UI (oppa impor) いいね 112件 108件	 tashwinul • フォローする Kumamoto University tashwinul Universitas Kumamoto berada di Prefecture Kumamoto di wilayah Pulau Kyushu, Jepang. Pada tahun 2016, wilayah tersebut diguncang gempa bumi sebanyak dua kali, yaitu pada tanggal 14 April (6.2 SR) dan 15 April (7.0 SR). Pada kunjungan ke Universitas Kumamoto beberapa waktu lalu, saya mendapatkan banyak informasi dan cerita pengalaman tentang bagaimana mahasiswa di sana menghadapi bencana gempa bumi dan melakukan rehabilitasi pascagempa. Saya mendapat betapa susahnyaa masyarakat setempat menghadapi bencana. Koreksi yang tidak saya temukan di Indonesia padahal sama-sama dikelilingi oleh ring of fire. #mofa #jenesys2018 #japanese #japan #juku #kita #indonesia #kulatantri adamdonilid Ternyata dari kumamoto lah lahir one piece :v いいね 1296件 108件
(インドネシア学生) このプログラムに参加できる機会を与えてもらい、本当に感謝しています。今、この瞬間まで数千もの思い出を得られました。本プログラムを通じ、日本文化と日本食について多くの知見を得られ深めることができました。	(インドネシア学生) 熊本大学は、九州の熊本県にある大学です。2016年4月14日(6.2SR)と16日(7.0SR)、この地域は二度にわたり大地震に襲われました。大学訪問のおかげで、その地震について、大学側の体験談や地震後の対応・復興などについて多くの情報を得られました。日本人が、災害が起こる前から日々どのように備えているのかを知ることができました。
 Pern Meunnavongchan is at Tokyo, Japan. 20 hrs • These are the activities what we have done for the second days # Laos # Jenesys2018	 Sing Phommavong? さん Sompoo Sysomphone? さん 他4人 と数ヶ月前 鹿児島市にいます。 Update 08:00 AM Jenesys Laos 2018 #JENESYS2018 AJACE AJAPAN #LAOS
(ラオス学生) 二日目のアクティビティは、首都圏外郭放水路、日本理解促進講義でした。	(ラオス学生) 今日の JENESYS2018 ラオスチームは、釜石市長表敬と津波被災現場へ訪問しました。

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

TIMELINE

Week 1 November:
Posting on Instagram
Post, Facebook and
Scripting After Movie

Week 3 November:
Editing After Movie,
Posting on Social
Medias

Week 1 Desember:
Building Youtube
Channel, Finishing After
Movie and Posting

【インドネシア】インスタグラム、Facebookなどで、プログラムでの学びを継続して発信します。また、訪日経験の動画を作成し、SNS上で発信するとともに、YouTubeにその動画を投稿します。

● To WHOM:
- Target: students
- Level: high school
- Number of participants: 50 or more

● Processing of program

● WHAT: (What are we planning to do?)
- to create mindset for our target about environment protection
- to encourage them following this methods:
1. garbage separation
2. reducing bins

● HOW: (How will we implement our plan?)

1. Workshop:
- To give a information and detail of garbage management.
- To share related experiences gained from Jenesys program

2. Activities:
- To rearrange the site of garbage bins appropriately.
- To lead students to practically manage the garbage by using lessons given.

【ラオス】プロジェクト名：ゴミ減量による環境への配慮喚起

高校生 50 人以上を対象に、環境保護の意識を植え付けて、ゴミの分別やゴミ箱の数を減らすなどの活動を推進します。具体的には、ゴミ処理について経験についてワークショップを開催すること、そして、学生たちが、ゴミを分別し周りを清潔に保つために指導し、ゴミ箱を適切な位置に配置できるように変えていきます。